

浮島町の

お薬師さん

平成二年十一月五日号

浮島町に「お薬師さん」とか「薬王さん」と呼ばれているお堂があります。ここには薬師如来が祭られており、地域の人々の信仰を集めています。今回は、浮島町一の高橋武次郎さんにお話を伺いました。

落馬させるお薬師さん

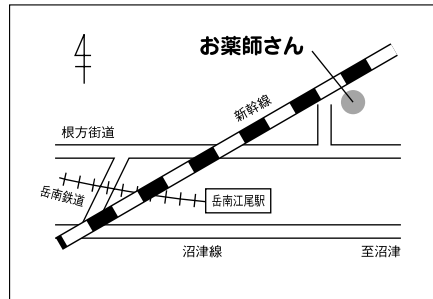
昔々のことです。愛鷹山の山すそに延びる根方街道は、東西を結ぶ重要な道でした。

お薬師さんは浮島の根方街道から、ちよっ

と北へ入ったところにあり、その昔は中尾山薬王寺という真言宗のお寺だったといわれます。

御本尊の薬師如来の靈験はあらたか、参道前の根方街道を馬に乗って通ると、必ず落馬するといわれました。実際に落馬する人が相次いだためでしょうか、いつしか仏像の背を街道に向けて、安置するようになり、今もそのまま置かれています。

また、参道東側には清水がこんこんとわき出ている池があります。この池の水を目に当たると目の病気に効くといわれ、多くの人が訪れたものでした。



病人の回復を祈る

あるとき、浮島の人が病に倒れました。部落のみんなはお薬師さんに集まり、ろうそく



▲ お薬師さん

を上げ、太鼓をたたいて回復を祈りました。

「おんころころ せんだりま とうぎょうそわか」とお経をろうそくの消えるまで何回も唱えました。長老は、ろうそくのとぼれる状態によつて病状を占い、人々は、また熱心に唱えました。

高橋さんの子どもころまで、このお祈りは続けられました。今は知る人も少なくなりました。

十六年に一度御開帳

現在の様子を高橋さんは「四月十六日に祭りが行われています。御本尊は高さが五センチぐらいで、梅の一本づくりです。破損が進んでいます。厨子に納められ、十六年に一度御開帳されます。お経は今でも言えますよ」と話してくれました。

語ってくれた方

高橋武次郎さん